

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋競馬場 スタンド棟	階数	地上3階
建設地	愛知県弥富市駒野町1番の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	2,000 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,340 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年3月29日
敷地面積	354,531 m ²	作成者	株式会社松田平田設計 西嶋 匡徳
建築面積	2,712 m ²	確認日	2021年3月29日
延床面積	5,464 m ²	確認者	株式会社松田平田設計 細川 健司



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 100%

④上記+ 100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.3)

音環境	3.0
温熱環境	3.0
光・視環境	3.0
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.4)

機能性	3.7
耐用性	3.4
対応性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.4)

生物環境	4.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.5)

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	2.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.7)

水資源	3.4
非再生材料の	3.9
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.0)

地球温暖化	3.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">37.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				-	3.0	-	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	1.00	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	敷地内緑化、既設植栽帯の保全	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	フェンスやゲートによるセキュリティ管理、駐車場2000台確保	-	4.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			イベント広場の計画、パドック等による室内外の一体利用	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			外壁に断熱パネルを利用	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3階にトップライトを計画	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化				3.0	2.0	0.30	-	-	-	2.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマの利用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	リサイクル資材の利用	3.0	5.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	ユニット部材を使用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着材や塗床等有害物質を含まない材料の使用	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①		-	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場計画、駐車場出入口の確保による交通渋滞の緩和	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている。	-	4.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインによる対策	-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10
② 資源の有効活用			3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19
③ 敷地内の緑化			4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09
			外構緑化:37.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 名古屋競馬場 スタンド棟

計画上の配慮事項	
総合	競馬を楽しむメインスタンドを中心にさまざまなイベントを行い、施設全体をエンターテイメントパークとして広く市民に開放された施設として提案。
Q1 室内環境	2階指定席は各種座席を設けることで利用形態に応じた座席を提案。視線障害が生じないように十分に配慮した座席配置。
Q2 サービス性能	どのような人にも使い易い施設づくりを配慮。観覧場機能をコンパクトにまとめることで初めての利用者にも分りやすい施設構成。十分な広さのお客様スペースを確保し、利便性に配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	イベント広場、パドック等ホースビューコリドーを計画し建物内外の一体的な利用を図る。
LR1 エネルギー	断熱性能を高め、冷暖房効率の向上を図る。
LR2 資源・マテリアル	エコマテリアル、グリーン資源を利用し環境に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地に対して計画建物の範囲を最小限かつ既存植栽帯の利用を図る。
その他	新スタンドの建設を併せ、既存建物を改修整備することにより既存ストックの有効活用を図る。